



がわら版

最終日4/8の翌日 25 尾張知多 13版 2012年(平成24年)4月10日 火曜日 第1000号

最終日4/8の翌日は新聞休刊日、「取材に東京までは行けないが翌4/10に掲載したいから写真を提供して」との要請に4/9会長が走り回って出たのがこの記事。反響は隊員の喜びの声と一般市民の次回企画「塩の道」への問合せですさまじかった。

尾張・知多



最終区間の東京・銀座を歩く参加者—一宮歩こう会提供

旧東海道 2年で踏破

毎月1回15〜25日、計28日間
ウオーキング愛好家のグループ「一宮歩こう会」が企画した「青春の東海道歩き」が8日、ゴールの東京・日本橋に到着した。丸2年かけて旧東海道406kmを踏破した。京都市・三条大橋を出発したのは2010年8月。60代を中心に1700人が参加し、毎月1回合計28日、丸2年かけて東京にたどりつく大企画だった。街道歩きはウオーキングファンに挑戦的人気があるらしく、途中、京都をめざす人たちがすれ違い、エールを

一宮歩こう会「日本の良さを堪能」次は塩の道

交わす場面もあったという。8日の最終区間は銀座8丁目から日本橋までの約2.8km。この日だけの参加者をめざめ、約1500人は、その日の朝と夕にシャツ、金銭を先頭に銀座の自派通りを歩き、特別の東海道歴史館にシルを貼りつけた。参加者は約1200人が手にした。一宮市でセレニーホールを無難する野々山久さん(60)は「風景、人情、歩いてみて初めて分かる日本の良さを堪能できた。2人で楽しめる共通の趣味が一つ増えた。妻の美生さんとほぼ全行程に参加した。会の発足から13年、1300人を超す企画の中でも最高の盛り上がりだった」と会長の小坂敏之さん(73)。「江戸時代の人は14日間歩いたとされている。その半分のペースを目安に目標を組んだ。歩き続けるには何よりも健康で豊かな心が必要だった」。すでに次の企画を準備している。日本橋と大塚から信州長野をつなぐ「塩の道360km」。6月にスタートする予定だ。問い合わせは事務局(090・91906・4565)。(尾張版)11

朝日新聞 2012.4.10

平均年齢65歳が毎月20日

一宮歩こう会

東海道五十三次を踏破

一宮市のウオーキング愛好家がつくる「一宮歩こう会」が、2年前から続けてきた東海道五十三次のルートを踏破するイベントで8日、ゴールの東京・日本橋に到着した。京都市から東京まで500キロを計28日かけて歩いたメンバーは「一生の思い出、みんな喜び合った。卒業式みたいで寂しさもある」と話している。(尾張版)11

尾張版



花なす
久保 由美子
白日会所属

ニュース情報は下記へ
社会部
052-231-1650・5919
Eメール
shakai@chunichi.co.jp
一宮 総局 千491-0851
一宮市大江1-13-13
0586-72-4545 Fax72-5035
津島通信部 0567-28-2157 Fax28-2158
福元通信部 0587-32-8800 Fax23-8035
江崎通信部 0587-54-4001 Fax54-9622
藤江通信部 0567-95-3022 Fax95-3000
春日井支局 0568-81-2036 Fax81-2797
大山通信部 0568-61-2612 Fax61-2613
小牧通信部 0568-72-1177 Fax72-6530

中日新聞へのご意見は
読者センターへ
052-221-0800 Fax221-0819
Eメール
center@chunichi.co.jp

中日新聞
2012.4.10



①雪が残る雪原旧街道の坂道を上る参加者たち=今年1月
②ゴールの日本橋を目指し、銀座を走り歩く参加者たち=東京都中央区で(いずれも一宮歩こう会提供)



2年1ヵ月の旅 銀座かっぱ、120人完歩

歩き切ることを目指す本隊だけでなく、途中で公共交通機関を使って観光スポットに寄り添う参加者のスタイルも可能だった。ただ、ゴールした参加者の多くは達成感に浸るばかりでなく、「目標がなくなるとの思いを口にした」。そんな声を受け、歩こう会は、新豊原糸魚川市から浜松市まで繋がる「塩の道」の企画を計画中、参加者を募っている。六月から一四年五月まで、三百五十キロを歩く。冬の幹線道路期間は長い方がよい。それまで健康でいようという。①歩こう会事務局(090・91906・4565)